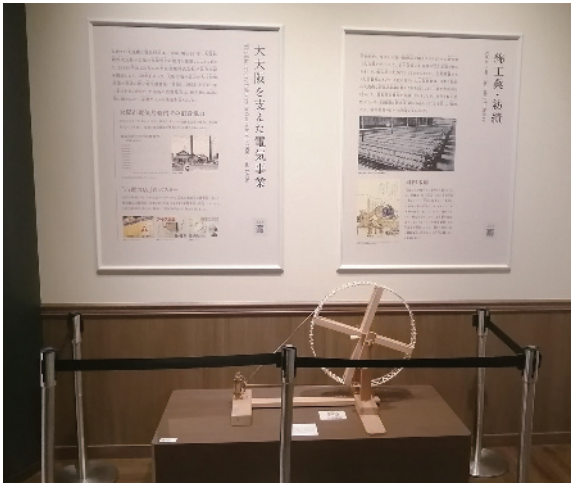
綿工業
～糸紡ぎ車～

みなさんは、製糸業と紡績業の違いを知っていますか？そして、どちらが大阪と関りが深いか知っていますか？蚕の繭から絹糸（生糸ともいう）を取り出すのが製糸業、綿や麻、羊毛など短い繊維から綿糸や毛糸を紡ぐのが紡績業です。大正時代から明治初期にかけて生糸は日本の総輸出額の30～40%に達し、綿糸や綿布も昭和初期には20%ほどになり、ともに近代日本を支えた産業でした。

製糸業は、後に民間に払い下げられますが、富岡製糸場に代表されるように多くは官営としてスタートした、外貨を稼ぐための輸出産業でした。



展示場4階　綿工業

それに対して紡績業は主に国内市場向けの需要に応えるための産業で、主に民間資本によってはじまりました。大阪は江戸時代から綿産業が盛んで河内木綿などが有名でした。ところが明治になり、安い綿製品が海外から入るようになると太刀打ちできず大打撃を受けてしまいます。明治初期の日本は綿製品を輸入していたのです。

事態を打開したのは、1882年に創業された大阪紡績会社（現・東洋紡績株式会社）でした。イギリス製のミュール紡績機を導入し、機械化により生産効率を向上させました。大阪紡績の成功により、次々と紡績工場が設立されるようになります。大阪はもともと手織りや小規模な紡績が行われており、繊維産業の伝統があったことが成功の要因にあげられます。

他にも都市部であったため、周辺農村からも工場労働者となる若者や女性を比較的容易に確保できたこと、綿製品の大きな市場があったこと、原料はインドやアメリカから輸入されるようになり、神戸港に近く原料の入手に適していたことも上げられ、綿製品は輸入品から輸出品に転換し、日本の経済を支えることになりました。

大倉　宏（科学館学芸員）

うちゅう　Vol.41,No.12（通巻492号）　2025年３月10日発行
発行所　大阪市立科学館　〒530-0005 大阪市北区中之島4－2－1　電話　06－6444－5656
印刷所　東洋紙業高速印刷株式会社
大阪市浪速区芦原2－5－56